

J Aバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（令和 7 年度）

J Aバンク新潟（県下 8 J Aと J Aバンク新潟県信連（正式名称：新潟県信用農業協同組合連合会）（以下、「信連」という。））では、農業と地域社会に貢献するため、「J Aバンク新潟中期戦略」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

令和 7 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめたので、ご報告いたします。

《目 次》

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援	・ ・ ・ ・ ・ P 2
2 担い手の経営のライフステージに応じた支援	・ ・ ・ ・ ・ P 5
3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・ ・ ・ ・ ・ P 9

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

令和8年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は108,247百万円(うち農業経営向け貸付金37,067百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)は13,064百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和8年3月末現在
農業経営向け	37,067
穀作	19,187
野菜・園芸	2,539
果樹・樹園農業	710
工芸作物	132
養豚・肉牛・酪農	1,716
養鶏・鶏卵	299
養蚕	2
その他農業	12,479
農業関連団体等	71,180
合 計	108,247

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和8年3月末現在
プロパー農業資金	100,502
農業制度資金	7,745
農業近代化資金	2,868
その他制度資金	4,877
合 計	108,247

(注)

1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。

2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。

3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】（単位：百万円）

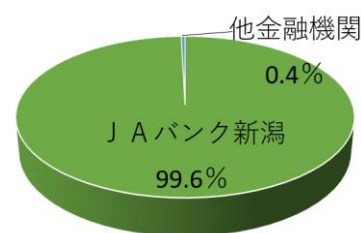
種 類	令和8年3月末現在
日本政策金融公庫資金	13,064
その他	—
合 計	13,064

（注）JAバンク新潟では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいて県内トップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金残高】（令和7年12月末時点）

新潟県内総貸付残高 2,858 百万円
うちJAバンク新潟残高 2,846 百万円
〔出所：新潟県農林水産部経営普及課〕



農業近代化資金 県内シェア
（令和7年12月末時点）

（2）アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

JAバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」等による出資を提案しています。

令和7年度末の出資先は14先、出資総額は119百万円となりました。

【農業者向けファンド取扱実績(令和8年3月末)】

（単位：先、百万円）

ファンド名	先数	出資額
アグリシードファンド	11	74
担い手経営体応援ファンド	2	35
プロパー投資	1	10
合 計	14	119

(3) 担い手のニーズに応えるための体制整備

J Aバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

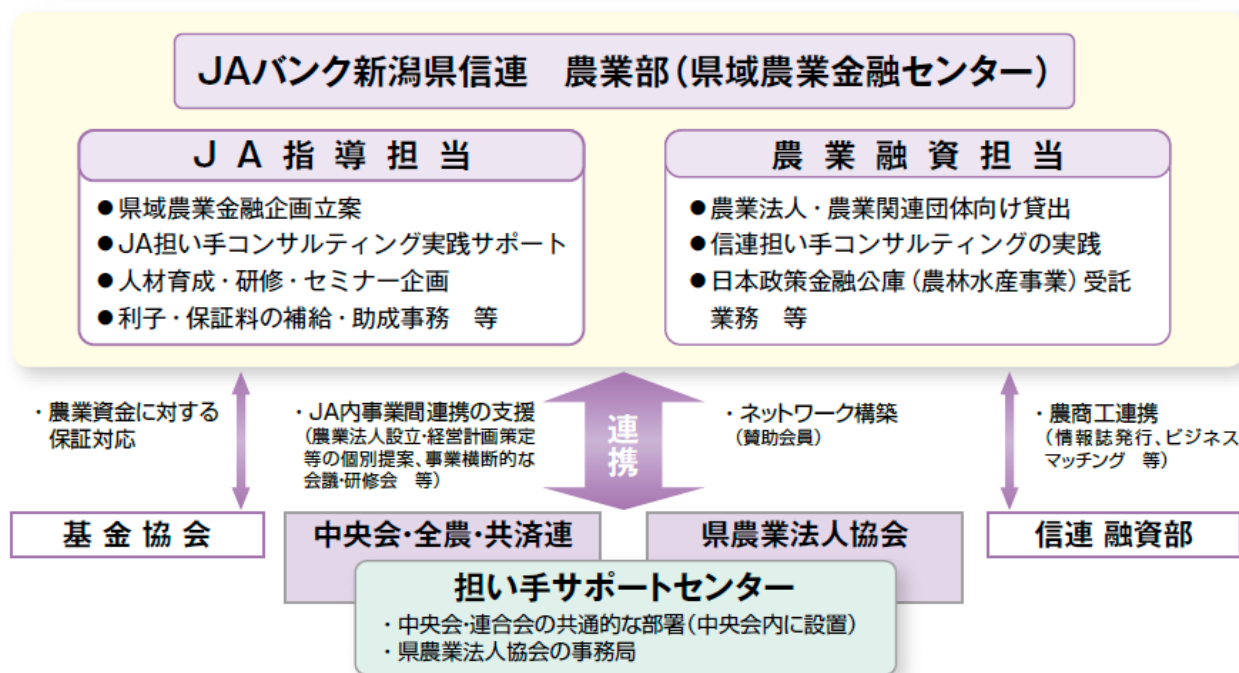
信連では、農業部を「県域農業金融センター」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資や担い手コンサルティング、ビジネスマッチングなどにも取り組んでいます。

県下 8 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「農業融資相談員」を J A本支店に 169 名配置し、また、農業融資の実務を統括する「担い手金融リーダー」を 9 名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「J Aバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、農業融資相談員のうち 116 名が資格を有しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「農業経営アドバイザー」資格の研修・試験にも取り組み、農業融資相談員のうち 35 名が資格を有しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「担い手サポートセンター」が中心となり、農業法人設立、経営計画策定および事業承継の個別提案活動や事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。

担い手支援にかかる体制図



2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする J A 自己改革を不断の取組みとしていくため、農業者への支援パッケージとして、「にいがた農業応援プログラム」を展開しています。

柱となる事業の一つである「にいがた農業応援ファンド」では、令和 7 年度も 3 つの事業を継続し、農業者の課題克服に向けた取組みを支援しました。



にいがた農業応援ファンドを活用して導入した農機具

【にいがた農業応援ファンド取組実績（令和 7 年度）】（単位：件、千円）

事業名	採択件数	採択金額
園芸生産拡大支援（担い手向け）	100	20,495
園芸生産拡大支援（産地向け）	2	5,000
農業イノベーション応援	44	19,901
新規・親元就農応援	46	4,600
合 計	192	49,996

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」等を取り扱っているほか、上記（1）のとおり、J Aバンク新潟独自のにいがた農業応援ファンド「新規・親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取組実績】（単位：件、百万円）

資金名	令和 7 年度		令和 8 年 3 月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	19	93	547
就農支援資金	—	—	—
J A 新規就農応援資金	1	4	4
合 計	20	97	551

（注）平成 26 年 4 月 1 日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

(3) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援

J Aバンク新潟は、農林水産業の成長力・収益力強化のため、ビジネスマッチングによる販路拡大等の農商工連携推進に取り組み、「農業と地域の架け橋」としての機能を発揮しています。

【情報誌「S o l e ! にいがた」の発行】

農商工連携推進の一環として、フリーペーパー形式の情報誌「S o l e (そーれ) ! にいがた」を平成 22 年 7 月に創刊、以来年 4 回発行しています。

この情報誌では、「農・商・工をつないでみんなで作る新潟の元気!」を合言葉に、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内の J A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。

※バックナンバーは、S o l e ! にいがたホームページからご覧いただけます。



S o l e ! にいがた

(4) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、農業法人等の皆さま向けに、講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

〈令和 7 年度に開催したセミナーの概要〉

名称	主催者	対象者	内容
第 19 回農業法人経営者セミナー	信連	県下農業法人および J A 等	【第一部】 演題：「『儲けのからくり』から考える経営戦略・マーケティング」 講師：(一社) アグリフューチャー ジャパン シニアマネージャー 長谷川 圭 氏 【第二部】 演題：「スマート農業を活用した作業省力化の実現」 講師：株式会社アグリシップ 代表取締役 佐藤 広幸 氏
第 16 回経済・金融セミナー	信連	融資取引先	演題：「日米『政治の秋』の展望と 2026 年に向けた投資戦略」 講師：U B S S u M i T R U S T ウェルス・マネジメント株式会社 チーフエコノミスト 青木 大樹 氏

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積

信連では、農業所得の向上および農業者の満足度向上に向けた取組みとして、地域の中核的な役割を担う農業者に対し、業種特性や外部環境・内部環境を踏まえたヒアリングを行い、経営・事業の課題解決に向けて、J Aや関係機関、専門家等と連携し、適切なソリューションの提供に向けて取り組んでいます。

今後も、ソリューション提供先の課題解決に向けて進捗状況を確認し、取組事例を蓄積していきます。

具体的な取組事例は、信連ホームページからご覧いただけます。

(<https://shinren.jabank-niigata.or.jp/4/4-2.html>)

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、各種自然災害等の被災者を支援するため、対策資金等の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

【災害対策資金の取組み】

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
令和5年度災害復旧支援資金	J Aバンク新潟	令和6年能登半島地震等により被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟および農林中央金庫からの利子補給による低利の資金を創設	1	9
令和7年度緊急農業経営安定対策資金	J Aバンク新潟	令和7年7月以降の猛暑・渇水および大雨被害により、農業経営に大きな影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟からの利子補給による低利の資金を創設	27	80
合 計			28	89

(7) 経営不振農業者の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【令和7年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先数)

		期初経営 改善支援 取組先 A	Aのうち再 生計画を策 定した先数 a	Aのうち期 末に債務者 区分がラン クアップし た先数 b	Aのうち期 末に債務者 区分が変化 しなかった 先数 c	再生計画策 定率 = a / A	ランクアッ プ率 = b / A
正常先 ①		39	18		31	46.2%	
要 注 意 先	うちその他要注意先 ②	15	1	0	10	6.7%	0.0%
	うち要管理先 ③	4	0	0	4	0.0%	0.0%
破綻懸念先 ④		18	3	0	14	16.7%	0.0%
実質破綻先 ⑤		15	2	0	8	13.3%	0.0%
破綻先 ⑥		1	0	0	0	0.0%	0.0%
小計 (②～⑥の計)		53	6	0	36	11.3%	0.0%
合 計		92	24	0	67	26.1%	0.0%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は令和7年3月末時点のものです。

(8) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【令和7年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	令和8年3月末 残高
農業負担軽減支援資金	1	3	257
畜産特別資金	1	11	61
農業経営負担軽減支援資金	—	—	40
土地改良負担金対策資金	—	—	218
その他	—	—	1
合 計	2	14	577

(注) 1 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また、地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) J Aバンク新潟食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子どもたちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」（小学校高学年向け、特別支援学校向け）の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校 421 校へ 17,671 部、特別支援学校向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校 6 校へ 36 部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下 J Aでは、下表のとおり食農教育にかかる様々な実践活動に取り組んでいます。令和 7 年度においては、県内 7 J Aが当事業を活用して食農教育活動を実施しました。各 J Aが創意工夫のうえ、地域の活性化の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を活用した各 J Aの活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	学校教育田事業	小学生を対象に、J Aが事業主体となり、稲作体験を実施
J A北新潟	こどもクッキング教室	小学生を対象に地場産農作物を使用した料理教室を実施
J A新潟かがやき	学童農園	小学生を対象に水稻の栽培体験を実施
J A佐渡	バケツ稲づくり体験	園児を対象にバケツ稲の定植と収穫までの経過観察および途中工程の指導を実施
J Aえちご中越	食農教育出前授業	園児、小・中学生を対象に地産地消、食料自給率、農業体験、調理実習などの出前授業を実施
J Aみなみ魚沼	はじめてのおにぎり作り	管内園児を対象にバケツ稲栽培に取り組み、その後、各園でシャカシャカおにぎり作り体験を実施
J A魚沼	どろんこキッズスクール	小学生を対象に田植え体験や昼食作り体験を実施



（２）文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○新潟市アグリパーク「アグリ・アート展」への協賛

芸術活動を通じて子どもたちの農業への理解を深め、アグリ・スタディ・プログラム※の更なる充実に貢献することを目的として、新潟市アグリパークが主催する絵画展「アグリ・アート展」への協賛を行っています。

※アグリ・スタディ・プログラムとは、学習指導要領の内容に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習のことです。

○「フードバンクにいがた」への食品寄贈

食品が無駄なく消費され、誰もが食を分かち合える心豊かな社会を創り、地域の福祉向上に寄与することを目的として、新潟県でフードバンク活動を行っているフードバンクにいがたへ食品の寄贈を行っています。

○「にいがた芸術・文化育成プロジェクト」への協賛

新潟県が推進する「にいがた芸術・文化育成プロジェクト」の趣旨に賛同し、特に若年層等が芸術文化を体験できる活動を中心に、継続的な協賛を行っています。

○「アルビレックス新潟」サッカー観戦チケットの寄贈

県内の障害者スポーツ普及活動を支援するため、新潟県障害者スポーツ協会へ、アルビレックス新潟のホームゲーム招待券を寄贈しています。

令和7年度は、特別大会9試合、延べ99名を招待しました。

○『小児がん』の子どもによりそう定期貯金」の受入れを通じた、支援団体への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、平成29年度より、貯金の受入れを通じた小児がん患者への支援を目的とした定期貯金を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、令和7年度は66万円を認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクトに寄付することができました。

○職員のボランティア活動への参加

新潟市等が主催する地域清掃活動に参加しています。

また、新潟赤十字血液センターのご協力により、団体献血を実施しています。

○エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○環境保全への取組み

ビジネス軽装の通年化、ノー残業デーの実施、当会が入居するJ A新潟ビルにおける節電対応、「J Aでんき再エネ特約」の導入など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

また、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的に、カーボン・オフセットにも取り組んでいます。

※ 「J Aでんき再エネ特約」とは、再生可能エネルギー電源に由来する非化石証書の使用により環境価値を付加した、実質的に再生可能エネルギー100%かつCO₂ゼロエミッションの電気を調達する契約です。

※ カーボン・オフセットとは、暮らしの中で出てしまうCO₂を、森林整備等CO₂吸収活動の支援により埋め合わせることです。

以 上